

学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業

(前年度予算額 1,082百万円)

25年度予算額 1,196百万円

地域コミュニティ

地域教育コーディネーター
(NPO、教員OB、PTA関係者、
自治会関係者 等)

＜地域の学びの場をコーディネート＞

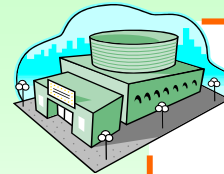


連携・協力

外部有識者
専門家等

地域住民等

＜外部講師やボランティアとして活動を支援＞



公民館、図書館等
社会教育施設



学校



集会所



児童館や福祉
施設など



＜学習活動の例＞

◆放課後や週末等の児童・生徒の学習支援

◆地域課題に係る学習会の実施

- ・地域ぐるみの防災教育
- ・震災後の心身の健康
- ・放射線と健康管理
- ・土地の権利関係や債務に関することなどの法律问题
- ・家庭教育や子育てに関すること
- ・世代間交流の促進による高齢者等の孤立化の防止

◆スポーツ・レクリエーション活動の支援

◆ICTを効果的に活用した学習支援

などの取組を実施



学びを媒介として、地域の人間関係を構築するとともに、身近な課題に自ら対応する能力を育成
住民の自律的な取組を基盤とする地域コミュニティの再生

平成24年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」実績

	市町村数	小学校	中学校	その他の 学校種等	公民館 図書館	仮設住宅・集 会所・その他
子どもの 教育支援 (登下校の 安全確保等) (授業終了後の 学習支援等)	61市町村	452校	180校	6箇所	—	—
	100市町村	477校	49校	50箇所	—	—
保護者向け支援 (子育て学習・交流、 相談対応等)	35市町村	126校	30校	14箇所	7箇所	27箇所
学校と地域の 協働学習 (防災・復興、伝統文化、 職業体験等)	78市町村	740校	315校	29箇所	102箇所	43箇所
地域課題に応じた 学習 (高齢者支援、健康管理、 地域づくり、地域人材の養成等)	101市町村	45校	16校	26箇所	282箇所	225箇所

※上記には、平成23年度繰越予算で実施している活動を含む。

※子どもの教育支援は、他の場所で実施している場合もあるが学校等の欄に計上している。

※上記の他、スポーツ・レクリエーション活動の支援を38市町村40箇所で、情報通信技術を活用した学習支援を4市町村6箇所で実施。

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

「学びの部屋」(岩手県陸前高田市、大船渡市等)

取組の概要

○大学・民間団体等との連携により、小学校・中学校、仮設住宅等を活用して「学びの部屋」を設け、放課後や週末等の学習支援を行うとともに、保護者向け研修会、地域支援人材向けワークショップ等を通じて、地域の再構築を図る。



「学びの部屋」とは、子どもたちが安心して過ごせる三間(サンマ)を提供する場所です。

「三間」とは・・・

- ◆空間:「学びの場」として安全・安心な教室。
- ◆時間:平日の放課後や土・日曜日の終日、週3～6日の学習時間を確保。
- ◆仲間:一緒に学ぶ仲間だけでなく、教育現場の経験を持つ学習サポーター、日曜日には若さと元気いっぱいの大学生・・・心強い仲間がサポートしています。「学生らが主体」となり学習指導をするなどの活動を展開することがポイント。



そして、4つめの間も。

- ◆すき間:勉強の合間の休憩時間や、ちょっと教室を出てボーっとする空間など・・・

支援員の感想

「学びの部屋」で過ごすことで、自分自身の夢や将来の姿を描きなおすことができ、学力向上や進学のために必要な「ヤル気」へとつながっています。夢の実現のために必要な勉強は、自学自習を基本としながら、確実にサポートするおとなの存在があり、入試合格や英検合格という成果をあげています。

また、何気ない対話の中から、個別に抱える生活課題等も顕在化し、心のケアの機会にもなっています。

この「学びの部屋」にはいろんな事情を抱えた子どもがたくさん来ます。想像の範囲ですが震災をきっかけにして家族との会話が密になったのではないかと思います。

生徒や保護者から、継続して実施してほしいという声や、他の仮設住宅で開催してほしいという要望が出ています。

陸前高田市

<陸前高田市立第一中学校の活用事例>



個別学習室



完全個別学習室



グループ学習室

●生徒の要望により、相談員や学生ボランティアと学ぶ「個別学習室」、「完全個別学習室」、「グループ学習室」に分かれて学ぶことができる。長期休みや受験準備期間には、開催日を増加して実施。

大船渡市

<大船渡市立大立仮設住宅の活用事例>



受験生用学習部屋



●空き仮設住宅を利用し、学習支援相談員や大学生による学習や進路相談、悩みなどのサポートを実施。

<大船渡市立越喜地区仮設住宅の集会所(談話室)の活用事例>



●大学ボランティアのサポート受け宿題に取り組む小学生。宿題終了後には外で元気に遊ぶ。

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

「学び支援コーディネーター等配置事業」（宮城県）

取組の概要

東日本大震災により、被災地を中心に県内の児童生徒の教育環境は激変し、特に家庭学習の習慣形成に関しては、仮設住宅への居住など住環境の変化や、地域コミュニティの崩壊・変化により大きな課題となっている。本事業は、児童生徒の学習習慣の形成を図るとともに、学力向上に取り組む市町村教育委員会に対して支援を行い、児童生徒に基礎・基本を確実に定着させ、学力の全体的な底上げを図るものである。

平成24年度取組状況

事業実施 **19市町村**、学習に参加した児童生徒 小学生のべ**36,129人**、中学生のべ**19,546人**、小・中学生合計のべ**55,675人**
学習会 **2,694回** 開催場所数 小学校**64校**、中学校**49校**、その他（公民館等）**38か所**、子どもの学習を支援した大学生等のべ**1,437人**

学習会に参加する児童生徒は多く、ニーズは高い。今後は事業を受託していない市町にも活用を呼びかけたい。（県担当者）

取組事例

南三陸町

被災地の児童生徒の学習環境は、仮設住宅での生活等で勉強に集中できる環境にない。

学習支援ボランティア等による学習支援を実施

南三陸寺子屋プロジェクト「TERACO」

○場所：当初はホテルの一室を利用していたが、児童生徒が通いやすいよう志津川中学校付近に新家屋を建設し開催

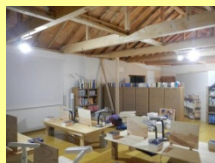
○実施時間

毎日 午後2時～午後9時まで

○対象

小学生、中学生、高校生

○学び支援員…大学生等



「TERACO」

事業実施による効果

得意科目を伸ばし苦手科目を克服する足掛かりとなるような支援を行うことで、志望校に入学したり、学ぶ喜びや楽しさを見つけ積極的に学習したりするようになった。

気仙沼市

○仮設住宅等に住む児童生徒が多い各小中学校（各10校程度）に学び相談員を配置し、学習支援を実施

（人材：退職教員、講師経験者、学習ボランティア等）

【放課後学習支援活動の実施】

対象となる各小中学校に学び相談員を1～2名配置し「放課後学習教室」を長期的に実施。

<6月～10月は小学校で実施。11月～3月は中学校で実施>

【長期休業期間中の学習支援活動の実施】

学び相談員や大学生の学習ボランティアを活用した「夏休み学び教室」「冬休み学び教室」「春休み学び教室」をそれぞれ3～5日間、集中的に実施。

<午前は小学生対象、午後は中学生対象>

【心のケアや学習支援に関する講演会の実施】

専門家やスポーツ選手、研究者を招聘して開催。

「放課後学習教室」や長期休業中の「学び教室」を開催したことにより、児童生徒の学びの場を保障するとともに、自学や学び合いの学習習慣を育成することができた。また、学び相談員や学び支援員（大学生等）との交流は、児童生徒の心のケアにもつながった。

塩竈市

○学び支援コーディネーター1人と学び支援員を市内6小学校に1人ずつ配置し、学習支援を実施。

○学び支援コーディネーターによる学び支援員への指導・助言

○学び支援員が学習支援室等で放課後の児童の学習を支援

宿題やドリル等に自主的に取り組む学習習慣を身に付けた児童が増えた。また、学習内容の理解につながり、学力向上を図ることができた。

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

郷土に想いをよせる「同窓会」（福島県 浪江町津島地区）

取組の概要

平成23年3月11日に発生した地震・津波、原発事故に伴い、被災地域の多くの子どもや保護者が県内外へと避難している。双葉郡浪江町津島地区から県内外へ避難している子どもや保護者を対象に国立那須甲子青少年自然の家において、久しぶりに会う同級生と交流を深め、郷土の良さを見つめ直すこと等を目的とし、福島大学のうつくしまふくしま未来支援センターの企画により「同窓会」を実施。

事業の内容

- 子ども向けプログラム…支援を受けることに慣れがちな児童生徒が自主的なプログラムの作成や参加を通じて自主性やコミュニケーション能力の育成を図る。
- 保護者向けプログラム…様々なストレスを抱えている保護者に対し、子どもたちの「困り感」への理解を深めさせるとともに、保護者自身のストレス解消をも図る。
- 全体プログラム…地域の人々と子どもや保護者が触れ合うことにより、郷土に関する情報交換や情報の共有を行う。

参加者

浪江町津島地区の小学5年生～中学2年生（震災時小学3年生～小学6年生）およびその保護者、地域住民が参加（茨城や新潟に避難している親子、福島大、企業からのボランティアも参加）

○児童生徒主催事業

「自分たちのお祭りをしよう」という想いを起点とした計画・準備・発表の場での活動を通して、児童生徒の自主性等の育成を図った。



○教育カウンセリング

子どもに寄り添った関わりができるよう、子どもの想いを伝えたり、保護者のストレスを軽減したり、放射線に関する情報を伝える会を実施した。



○故郷の郷土芸能の紹介・体験

津島地区に伝わる「田植え踊り」「三匹獅子舞」の映像を鑑賞後、三匹獅子舞で使用する千穂づくりを体験。地域の人たちと触れ合い、郷土に関する情報交換を行った。



参加した子どもたちの感想

- 「なかなか会えない友達に会えてうれしい。思いっきり遊びたい。」（朝日新聞）
- 「今通っている学校の人たちも優しいけど、過ごした時間の長い津島の友達の方が話しやすい。いつか友達みんなと津島に帰りたい。」（朝日小学生新聞）



記事の掲載された新聞

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

子どもから大人まで誰でも参加し学び合える「ならはキャンパス」（福島県楡葉町）

ならはキャンパス

○移転先のいわき市に開設をし、楡葉町の住民を対象とした子どもの学習支援、保護者同士の交流、コミュニティ・キッチンの企画運営等、学びを中心にして、地域住民が交流するきっかけをつくる。

○震災による学習環境が悪化し、学習遅れがある子どもの学力補強を行う。

取組の概要

6つの事業を企画・運営をする。

○児童生徒向け放課後補習教室「ゆずり葉学習会」

学習支援員等が放課後等の生徒の安全で安心な居場所を確保する。教育委員会、学校の教職員と連携しながら、実施内容と時間割を作成。学習補助の他高校や大学進学に向けたアドバイスを行う。

○ICTを利用した遠隔型個別学習支援

学習遅れの解消のために、ICTを利用した学習進度に合わせた学習ドリルによって学び直すと共に、学習支援員による学習計画等の指導も行う。

○ならはスポーツクラブ

スポーツイベントや講座の実施。試合相手の招へい、地域のスポーツクラブの紹介などを行う。スポーツや体験活動を通じた体力増強を行うことで、学習上必要な集中力、筋力、根性を身につける。

○定例子ども会議

講座作り、町づくりに子どもの意見を取り入れる。調べ学習の延長。大学生ボランティアや地域の方々と一緒に将来のキャリア等について学ぶ。他の自治体の取り組みを実際に視察して取り入れる。

○子育て世帯の保護者の茶話会

教育上の悩みや生活上の悩みなど子育ての悩みを話し合い、保護者同士や地域の資源で解決する。外部の力が必要な場合は、地域教育コーディネーター等がとりまとめて検討し、関係機関と協議する。

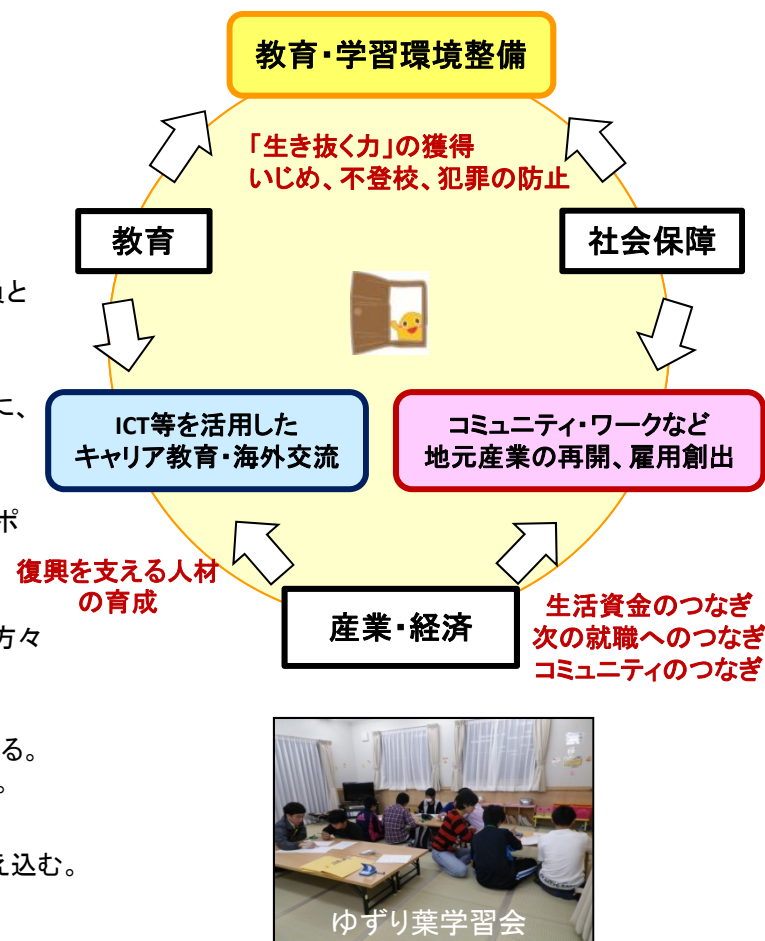
○ならはコミュニティ・キッチン

食材を持ち込めば、料理ができる。地域の味を食材の選び方や伝統的な料理法まで徹底的に教え込む。炊出しによる地域の交流の場になる。



特徴・期待される効果

○子どもの「生き抜く力」の獲得の為に、学習支援をキャリア教育と地域の人材活用を合わせて行う。



～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～ (スポーツ・レクリエーション活動の支援)

受託団体：岩手大学（陸前高田市体育協会、大船渡市体育協会等）

実施体制

○「岩手県スポーツ支援活動実行委員会」を組織し、各団体と連携実施。
岩手大学スポーツユニオン、岩手県教育委員会、（財）岩手県体育協会、まつぞのスポーツクラブ

実施状況

○地域スポーツコーディネーターの配置 18人
○教室実施回数 1,466回
○年間参加者数 延べ31,000人（概数）

住民ニーズの把握

○「地域スポーツコーディネーター」が寄り添い型（傾聴）の活動を行い、行政では手の回らなかった細かな被災住民ニーズを把握し、そのニーズを基に様々なプログラムに活かし展開している。

（主なニーズ）

- ①これから運動教室を続けて欲しい（運動習慣の定着、交流機会）
- ②色々な運動体験をしたい
- ③他地域との交流をしたい（コミュニティを広げたい）

成果と今後

○様々なプログラムを通して、心の傷が癒えず自発的に健康のことを考えて運動しようと思えない被災住民が、徐々に自身や家族の健康維持について高い関心が出ている。自治体健康福祉担当部署やケースワーカー、医師会等との情報交換を密にし、健康維持・増進の取り組みへプログラムの幅を広げながら進めていく。
○運動教室等を体験した後、自主的に体操などの軽運動教室を開催したり、教室を通じて知り合った住民同士がお互いに交流を持つ等コミュニティ再形成の動きが見え始めている。

復旧・復興を住民一人ひとりが実感できるまでには、まだまだ相当の時間を要する。
これまで構築したネットワークを軸に長期間にわたり取り組む。

陸前高田市体育協会



【キッドピクス教室】

場所 高田町大隅まちづくり商店街集会室
内容 体幹トレーニングの一種で、子どものためのエアロビクス（Kid+Aerobics）。親子で参加し楽しむことで、親子のふれあいを深めることを目的としている。

大船渡市体育協会



【放課後にこにこスポーツ塾（子ども向け）】

場所 大船渡市三陸B&G海洋センター体育館
内容 震災により公園など遊び場をなくした子ども達に、スポーツゲームや基礎運動など身体を動かす機会を提供する。



【高齢者のためのちょこっとエクササイズ】

・場所 大船渡市三陸B&G海洋センター体育館
・内容
被災地の高齢者を対象に明るく楽しく継続的に健康増進運動プログラムを提供。被災の有無に関わらず多数参加していただくことで震災以降希薄化しつつある地域コミュニティの再生を図る。

学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業について

(一般会計予算との整理)

事業概要

今後の被災地の自律的な復興に向け、被災により大きく環境の変化した地域や仮設住宅等で暮らす子供、保護者、地域住民を対象に、主体的に参画することのできる学びの場づくりを推進し、学習や交流の促進、子供達の育成環境の改善等を図ることを通じて、被災地の課題解決・地域コミュニティの再生を支援するもの。

会計区分

東日本大震災復興特別会計

※被災地に対する同旨の一般会計予算事業はない(被災地の要望・厳しい状況等から自治体負担による取組は困難。)

<取組内容>

対象	東日本大震災における被災地・被災者(子供から大人まで)
事業の内容 (主な事業例)	被災により大きく変化した地域コミュニティの再生のための学び場づくり、子供達の育成環境の改善 被災地の子供向け ・仮設住宅等での生活により、学習の場が確保できず、困難な学習環境におかれた子供達への学習支援(中・高校生への受験に向けた等の指導も含む) ・被災により危険な状況にある通学路の安全確保 ・散在している仮設住宅等までのスクールバスの時間までの学習の場、居場所の提供。 被災地の地域住民(大人)向け ・集会所や公民館等を活用した、地域の防災体制、放射能の理解、生活再建、復興に向けた地域づくり等の学習会の実施。 ・仮設住宅や新たな地域等に暮らす保護者同士の交流や震災後の子供の理解に関する学習、心のケア等の実施。 自治体ごと移転したコミュニティ向け ・移転先の地域での地域住民・保護者の学習・交流や、仮設校舎・集会所等を活用した子供達の居場所づくり、学習支援等 県内外に離散したコミュニティ向け ・震災や原子力災害により県内外に離ればなれになった子供や保護者、地域住民の集い(同窓会)の機会の提供による、地域の伝統芸能の学習・伝承や心のケアの実施。
予算額・負担率	約12億円 全額国庫負担(委託事業)

<参考:全国の自治体向けの一般会計による教育環境整備関連の取組(子供向け)>

学校・家庭・地域が連携協力して社会全体で子供達を育む体制づくり

子供を対象に、土曜日や放課後等において、地域の教育力による多様な学習・体験・交流活動の提供。

※約49億円 1/3国庫補助(補助事業)